

1. 上智短期大学学則

第1章 総則

(設立)

第1条 上智短期大学(以下「本学」という。)は、イエズス会の設立にかかり、その法的設置者は学校法人上智学院である。

(目的)

- 第2条** 本学は、カトリシズムの精神にのっとり、深く専門の学芸を教授研究し、全人間形成につとめ、職業又は實際生活に必要な能力を養成し、もって有能な社会の形成者を育成することを目的とする。
- 2 英語科は、国際語である英語の高度な運用能力を身につけ、それを基盤として幅広い教養と柔軟かつ複眼的な判断力と思考力を持ち、異文化を理解し、多様化した現代社会において責任ある地球市民として活躍できる社会人基礎力を具えた人材を育成すると共に、自律した学習者を育て、高度な専門分野の基盤を築くことを目的とする。

第2章 学科、学生定員、修業年限等

(学科、及び学生定員)

第3条 本学に次の学科をおく。

英語科

第4条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

学 科 名	入 学 定 員	総 定 員
英 語 科	250	500

(修業年限及び在学年限等)

第5条 本学の修業年限は、2年とする。

- 2 学生は、4年を超えて在学することはできない。ただし、休学期間は含まない。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 本学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学期は、学年を分けて、春学期及び秋学期とし、それぞれ次の期間とする。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 前項にかかわらず、秋学期に属する授業科目は夏期休業日終了の翌日から始める。

(休業日)

第8条 授業休業日は、次のとおりとする。

(1) 土 曜 日

(2) 日 曜 日

(3) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(4) 創立記念日 11月1日

(5) ザビエル祭 12月3日

(6) 春期休業日

(7) 夏期休業日

(8) 冬期休業日

- 2 前項第6号から第8号までに定める授業休業日の始期及び終期は、年度により別に定める。

3 学長は必要に応じ、第1項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。

4 学長は必要に応じ、第1項各号に定める授業休業日を、授業日(補講日及び集中講義期間を含む)とすることができる。

第4章 入学、休学、退学等

(入学の時期)

第9条 本学の入学時期は、原則として学年のはじめとする。

(入学資格)

第10条 本学は、次の各号の一に該当するものにつき、選考の上入学を許可する。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を終了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者
- (4) 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 入学の許可は、教授会の議を経て、学長が、これを決定する。

(入学の出願)

第11条 本学に入学しようとする者は、入学願書、出身高等学校の調査書又は検定試験合格証明書その他必要書類に、入学検定料を添えて提出しなければならない。

(入学手続)

第12条 入学を許可された者は、所定の様式による次の書類に入学納付金を添えて、所定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 保証人連署の誓約書
- (2) 住民票記載事項証明書（外国人の場合は登録原票記載事項証明書）
- (3) 出身高等学校の卒業証明書
- (4) その他必要書類

(保証人)

第13条 保証人は、日本国内に居住し、一家計を立てる成年者で、入学者の学費と一身上に関する一切の責任を負うことができる者で、原則として父母とする。

(編入転入、再入学)

第14条 本学に編転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上許可することがある。

第15条 編転入学を許可された者の入学の手続は、第12条及び第13条の規定に準じ、かつ、前学校において修得した単位修得証明書を提出しなければならない。

第16条 本学を中途退学し、再び入学しようとする者については、別に定める。

(休学)

第17条 病気その他のやむを得ない事由で休学しようとする者は、その事由を詳記した所定の様式による休学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。病気のために休学する者は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間は、1学期又は1学年を区分とし、1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

3 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。

第18条 休学中における授業料は、これを減額する。その基準については、別に定める。

(復学)

第19条 許可された休学期間が満了した場合は、復学となる。ただし、病気によって休学の許可を受けた者は、医師の診断書を添えた所定の復学届を提出しなければならない。

2 休学期間中に休学の事由がやみ、復学しようとする者は、所定の様式による復学願を提出し、学長の許可を得て復学することができる。

(退学)

第20条 やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の様式による退学願を学生証とともに提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 退学を願い出る者は、その時期までの授業料等を完納しなければならない。

第21条 連続する2か年（ただし、休学期間を除く。）において修得した単位数が、24単位数に満たない者は、退学させる。

(除籍)

第22条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 第5条に定める在学年限を超えた者

- (2) 許可された休学の期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 授業料等の納付を怠り、督促しても、なお納付しない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

第5章 授業科目、履修方法等

(授業科目及び単位数)

第23条 授業科目は、英語科目、教養科目、基礎科目、専門科目とする。

2 その他自由科目を開設することもある。ただし、卒業要件単位には算入されない。

第24条 前条の科目は、学科の定めるところにより、必修科目と選択科目とにわけられる。

第25条 授業科目を履修する場合、その授業に出席し、かつ試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

2 本学において開設する授業科目の単位数は、別表第1のとおりとする。

(単位の計算方法)

第26条 授業科目の単位数は、1単位履修に45時間の学修を要することを標準とし、次の基準によって授業時間に対応した単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(履修方法)

第27条 英語科目については、学科の定めるところにしたがい14単位以上を履修しなければならない。

第28条 教養科目については、学科の定めるところにしたがい16単位以上を履修しなければならない。

第29条 基礎科目と専門科目については、学科の定めるところにしたがい合わせて36単位以上を履修しなければならない。

第30条 削除

第31条 削除

第32条 履修しようとする科目は、毎学期所定の期間に登録しなければならない。

(試験)

第33条 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は学期末に行う。

第34条 いずれの科目でも授業時数の3分の1以上欠席した者は、その科目の受験資格を失う。

第35条 授業料等未納者は、試験を受けることができない。

(追試験)

第36条 病気その他やむを得ない事由で、試験を受けることができなかった者は、別に定める手続により追試験料を納付の上、追試験を受けることができる。

(学習の評価)

第37条 授業科目の成績評価は、上位よりA(100~90点)、B(89~80点)、C(79~70点)、D(69~60点)、F(59点以下)の標語をもって表示し、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。

2 前項にかかわらず履修中止科目をW、認定科目をNと表示する。

3 第1項の成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点(Grade Point Averageに相当するもの。以下「GPA」という。)を用いる。

4 前項に定めるGPAは、成績評価のうち、Aにつき4.0、Bにつき3.0、Cにつき2.0、Dにつき1.0、Fにつき0をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、登録科目(W、Nで表示された科目を除く)の総単位数で除して算出する。

(再履修)

第38条 各年次に配分された必修科目につき不合格となった者は、翌年次において、これを再履修しなければならない。

(他の短期大学又は大学等における授業科目の履修等)

第39条 本学が教育上有益と認めるときは、在学中に他の短期大学又は大学(外国の短期大学又は大学を含む)において履修した授業科目について修得した単位を、15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができる。

2 本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学前に他の短期大学又は大学(外国の短期大学又は大学を含む)において履修した授業科目について修得した単位を、15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができる。

3 前2項において、上智社会福祉専門学校において修得した単位を、本学において修得したものと認定

することができる。

- 4 他の短期大学及び大学並びに上智社会福祉専門学校での履修及び修得した単位の認定については別に定める。

第6章 卒業及び学位

(卒業の要件)

第40条 本学を卒業するためには、学生は2年以上在学し、第27条から第29条までに定めるところにしたがい66単位以上を修得しなければならない。

(卒業)

第41条 本学に2年以上在学し、卒業に必要な所定の単位を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

(学位)

第42条 前条の規定により卒業したものには、本学学位規程の定めるところにより、短期大学士の学位を授与する。

第7章 検定料、授業料、その他の費用

(授業料)

第43条 本学学生は、毎学年所定の納付金を所定の期日までに全納しなければならない。ただし、所定の手続によって分納することができる。

(検定料等の金額)

第44条 本学の検定料、入学金、授業料等の金額は、別表第2のとおりとする。

第45条 入学後2か年を超えて在学する者の授業料等は、その在学する学年の標準年次の者と同額とする。

(納付した授業料等)

第46条 既納の諸納付金は、返還しない。

(学資金)

第47条 本学は、学資金を給与又は貸与し、若しくは授業料の一部を免除することがある。

- 2 奨学制度に関する事項は、別に定める。

第8章 教職員組織

第48条 本学に学長をおく。

- 2 学長は、本学を統督する。

第49条 本学の学科に科長をおく。

- 2 科長は、学長を補佐し、当該学科の学務を処理する。

第50条 本学に教授、准教授、講師、助教、及びその他の職員をおく。

- 2 教職員に関する規定は、別にこれを定める。

第9章 教授会

第51条 本学の学科に教授会をおく。

第52条 教授会は、教授、准教授、専任講師、及び助教をもって組織する。

- 2 教授会は、次の各号に掲げる事項に関し審議する。

- (1) 教育研究及び授業に関する事項
- (2) 教育課程に関する事項
- (3) 学則その他の規定の制定、改廃に関する事項
- (4) 教員の採用、昇任等人事に関する事項
- (5) 学生の入学、退学、転学、休学、留学及び卒業に関する事項
- (6) 試験及び合否に関する事項
- (7) 学生の指導、賞罰に関する事項
- (8) 本学の行事に関する事項
- (9) その他学長から諮問された事項

第53条 本章に定めるもののほか、教授会に関し、必要な事項は別に定める。

第10章 科目等履修生及び聴講生

第54条 本学は、本学に在学する者以外で、1科目又は数科目を履修する者（以下「科目等履修生」とい

う。)の受け入れを許可し、単位を与えることができる。

2 科目等履修生の受入許可及び単位の授与については、別に定める。

第55条 本学に在学する者以外で、本学の科目中1科目又は数科目の聴講を願い出る者があるときは、欠員があり、かつ、授業に支障がないと認められた場合に限り、選考の上これを許可することができる。

2 聴講生となる者は、聴講しようとする科目を履修するに足る学力を有しなければならない。

第11章 賞罰

(表彰)

第56条 本学学生にして人物及び学業成績優秀と認められた者には学長が表彰する。

(罰則)

第57条 本学学生にしてその本分にもとる行為があったと認められるときは、その軽重にしたがい譴責、停学又は退学処分とする。

第58条 次の各号のいずれかに該当する者は、退学させる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

(2) 第22条の規定にかかわらず学業成績不良又は身体虚弱で成業の見込みがないと認められた者

(3) 正当な理由がなく出席状況の極めて悪い者

(4) 教育、研究及びこれに附帯する機関等の1部又は全部につき、その業務遂行を妨害した者

(5) その他本学に在学させることが不相当と認められた者

第12章 附置施設及び附属機関

(諸機関の設置)

第59条 本学は、学生の個人及び集団の生活指導と課程外の教育とを重視し、そのための諸機関を設けることができる。

(図書館)

第60条 本学に図書館を設ける。

2 本学に設置する学科の規模に応じて、教育研究上必要な図書、学術雑誌、視聴覚資料等を、前項の図書館を中心に系統的に備え、学術情報の提供に努める。

3 図書館に関して必要な事項は別に定める。

(健康管理)

第61条 本学は、学生の健康管理のために、健康管理室を設ける。

第62条 本学学生は、学年毎に健康診断を受けなければならない。

(学生寮)

第63条 本学に学生寮を置く。

第13章 公開講座等

(公開講座等)

第64条 本学は、地域の文化向上、成人教育その他の研究のため公開講座及び講習会を開設することができる。

第14章 自己評価等

(自己評価等)

第65条 本学は、教育研究水準の向上を図り、第2条に掲げる目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動の状況について、自己点検及び評価を行う。

2 前項の実施並びに方法については、別に定める。

(認証評価)

第66条 本学は、前条の措置に加え、学校教育法の定めるところにより、本学の教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第15章 ファカルティ・ディベロップメント

(ファカルティ・ディベロップメント)

第67条 本学は、教授法や授業運営などの改善や教育活動にかかる知識・技能・能力の獲得又は向上を組織的に支援するためにファカルティ・ディベロップメント活動を実施するものとする。

2 ファカルティ・ディベロップメント活動の実施体制並びに方法については、別に定める。

第16章 雑則

第68条 本学則実施にあたり、必要ある場合には、別に細則を定めることができる。

附則

本学則は、昭和48年4月1日から施行する。

(省略)

附則

本学則は、2011年（平成23年）4月1日から改正、施行する。

<別表第1>

1. 英語科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
英語Ⅰ	2		
英語Ⅱ	2		
英語Ⅲ	2		
英語Ⅳ	2		
基礎英語スキルズ（生活の英語）		2	
基礎英語スキルズ（ライティング）		2	
基礎英語スキルズ（リーディング）		2	
基礎英語スキルズ（文法・語彙）		2	
標準英語スキルズ（生活の英語）		2	
標準英語スキルズ（旅行の英語）		2	
標準英語スキルズ（職場の英語）		2	
標準英語スキルズ（メディアの英語）		2	
標準英語スキルズ（文法・語彙）		2	
標準英語スキルズ（ライティング）		2	
標準英語スキルズ（リーディング）		2	
標準英語スキルズ（パブリックスピーキング）		2	
標準英語スキルズ（ディスカッション）		2	
標準英語スキルズ（アカデミックリスニング）		2	
標準英語スキルズ（TOEIC対策）		2	
上級英語スキルズ（職場の英語）		2	
上級英語スキルズ（ライティング）		2	
上級英語スキルズ（学術論文作法）		2	
上級英語スキルズ（多読速読）		2	
上級英語スキルズ（ディベート）		2	
上級英語スキルズ（編入対策）		2	

2. 教養科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
人間学Ⅰ	2		
人間学Ⅱ	2		
歴史学			4
哲学			4
女性と哲学			4
宗教学			4
音楽			4
女性学			4

2. 教養科目 (続き)

社会学			4
日本国憲法			4
法学			4
教育学			4
政治学			4
経済学			4
社会福祉入門			4
マスメディア論			4
情報リテラシー演習			4
自然科学入門			4
数学			4
心理学			4
体育理論・実技 1			2
体育理論・実技 2			2
体育理論・実技 3			2

3. 基礎科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
異文化理解コース基礎科目			
キリスト教文化入門			4
異文化間コミュニケーション			4
英米文学研究コース基礎科目			
英文学概論			4
言語研究コース基礎科目			
言語学概論			4
言語教育コース基礎科目			
児童英語教育概論			4
日本語教育概論			4
ドイツ語 I			2
ドイツ語 II			2
フランス語 I			2
フランス語 II			2
スペイン語 I			2
スペイン語 II			2
中国語 I			2
中国語 II			2
日本語表現法			4
キャリア・プランニング			4
留学準備			2

4. 専門科目

授業科目名	単位		
	必修	選択必修	選択
基礎ゼミナール	2		
基礎ゼミナール (再)	2		
プレ・ゼミナール	2		
ゼミナール I	2		
ゼミナール II	2		

4. 専門科目 (続き)

異文化理解コース関連科目			
東洋研究A			4
東洋研究B			4
西洋研究			4
日本文化			4
英米史			4
ヨーロッパ社会史			4
ヨーロッパ現代史			4
比較社会史			4
国際関係論			4
文化人類学			4
現代美術			4
ビジュアル・レトリック			4
比較・国際教育学			4
社会正義のグローバルリテラシー			4
言語とリテラシー教育			4
個人と人権			4
比較政治制度論			4
英米文学研究コース関連科目			
英語英米文学入門			4
アメリカ短編小説研究			4
英詩研究			4
演劇研究			4
小説研究			4
アメリカ文学史			4
映画と文学			4
翻訳演習			4
言語研究コース関連科目			
社会言語学			4
音声学			4
日本語学			4
語用論			4
英語史			4
通訳演習			4
言語教育コース関連科目			
バイリンガル教育			4
初等教育			4
児童心理学			4
第二言語習得			4
児童英語教材論			4
児童英語教育演習			4
日本語教育演習			4
インデペンデント・スタディ			2
海外短期語学講座			2

<別表第2>

(単位：円)

	新入生	在學生	備 考
検定料	35,000		
入学金	270,000	—	入学の際のみ
授業料	692,000	692,000	年額
オリエンテーション費	17,400	—	入学の際のみ
施設設備費	180,000	170,000	年額
実験実習費	8,800	8,800	年額
連絡通信費（消費税込）	2,650	2,650	年額
学生教育研究災害傷害保険料	1,400	—	保険期間2年（注1）
同窓会積立金	—	10,000	（注2）
英語力診断テスト受験料	5,455	2,465	年額（注3）

注1 学生教育研究災害傷害保険料については、当初納入した金額に対応する保険期間を過ぎて在学する場合、1年毎に徴収する。保険期間1年間 800円。

注2 同窓会積立金については、2年次に徴収する。

注3 英語力診断テストは、TOEIC-IPを1年次生年2回、2年次生以降は年1回受験する。